



■ H22(2010)年12月2日

中華民国屏東県視察団が来訪されました。

【視察日】平成22年10月28日（木）

8月に鶴見川に視察に来た屏東県で、今回は県長をはじめとした県職員等20名が来訪し、鶴見川流域の遊水地などを終日視察されました。

14時からは鶴見川多目的遊水地と流域センターの視察見学の後、曹県長(県知事)と元永京浜河川事務所長、特定非営利活動法人鶴見川流域ネットワークの岸代表を交えて意見交換会が行なわれました。

屏東県は、台湾最南端に位置し、80万人の人口を抱える県です。この県に流れる林辺溪は、標高2,900mから流れ出て、延長44.33km、流域面積345平方km、流域自治体8つ、人口約5万人の河川です。100年に一度の水害に対応した河川でしたが、昨年8月8日に2日間累計3,150mmを超える豪雨に見舞われ堤防の両岸が決壊、林辺郷と佳冬郷一帯などで水害に見舞われました。

県では、今後も地球温暖化が進行し、同じような災害にみまわれる危険性を考え、温暖化に適応した対策を検討している中で日本の先進事例を視察するため来日したとのことでした。

意見交換の最後には、「鶴見川での総合治水事業が大変参考になった」との感想を述べられ

ました。

